明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS

グリフィンズ２戦目は、立教大学ラッシャーズ。

SPRING GAME 4th 2025年5月18日（日）K.O15：45 天候：晴 場所：アミノバイタルフィールド

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
立教大学 RUSHERS	3	7	0	7	17
明治大学 GRIFFINS	0	14	3	7	24

１Q

立教大学のキックで試合が始まりました。
試合の立ち上がりは、両校ともにサーダンアウトとなり、互いに堅い守りが光る、締まった展開となります。
その後も一進一退の攻防が続く中、立教のパントブロックにより、明治は自陣10ヤードという厳しいフィールドポジションからのディフェンスを余儀なくされます。
ここで立教は、残り1ヤードでのギャンブルを選択。しかし、明治ディフェンスが粘りを見せます。#7 天野（4年生）が渾身のタックルでランを止め、このピンチをしのぎ切りました。ディフェンス陣が踏ん張りを見せ、チームに勢いをもたらします。
第1クォーターの終盤、立教のフィールドゴールにより先制を許しますが、直後のキックオフで#21 高橋（4年生）がロングリターンを披露。敵陣深くまで攻め込み、明治に反撃のチャンスをもたらしたところで、1Q終了となりました。

２Q

第2クォーター、明治の攻撃は最初のプレーから動きを見せます。
#15 新楽（4年生）が自らエンドゾーンへ持ち込み、タッチダウン。明治が逆転に成功し、スタンドも大きく沸きました。
その後はリードを守りたい展開となりますが、第2クォーター中盤、立教がロングパスを通し、#80の選手がタッチダウン。再びスコアをひっくり返されてしまいます。
拮抗した展開が続く中、明治に再びビッグプレーが生まれます。
キックオフリターンで#21 高橋（4年生）が圧巻の88ヤード独走タッチダウン。スタジアムの空気を一変させるビッグゲインで、再び明治がリードを奪い返します。
さらに、前半終了間際にはパントカバーの場面で相手に反則があり、明治がもう一度攻撃権を得ます。追加点を狙いましたが、立教の堅い守備に阻まれ得点には至らず。そのまま明治リードで前半を終えました。

3Q

4点差の緊迫した展開の中、後半・第3クォーターの中盤までは、両チームのディフェンスが集中力を切らさず、互いに得点を許さない膠着状態が続きました。
その均衡を破ったのは、明治の#35 佐尾山(3年生)です。相手パントチームのミスを見逃さず、素早く反応してボールをカバー。敵陣2ヤードというこの上ないフィールドポジションで、明治が攻撃権を手にします。
ここで一気にタッチダウンを狙いたい明治オフェンス。得意のランプレーで押し込みを図りますが、立教の堅い守備に阻まれ、エンドゾーンまでは届かず。
最終的にフィールドゴールを選択し、確実に3点を加えて追撃態勢を整えます。

4Q

第4クォーターは、開始早々から試合が動きます。
明治の#11 後藤珠（2年生）がロングリターンでフィールドを一気に駆け上がり、スタンドを沸かせます。
そして続くプレーでは、#15 新楽（4年生）から#19 五十嵐へのパスが決まり、そのままタッチダウン。貴重な追加点を挙げ、明治が24-10と立教を引き離します。
このまま流れを掴みきりたい明治でしたが、試合時間残り4分、パントチームでのミスから自陣17ヤードという厳しい状況でのディフェンスに。
その直後のプレーで、立教の#80に再びパスを通され、タッチダウンを許してしまいます。スコアは24-17、緊張感が一気に高まります。
しかし、明治はここで慌てることなく、残りの4分間を堅実にプレー。ディフェンス陣が最後まで集中を切らさず、立教の反撃をしっかりと封じ込めて試合終了。
最終スコアは24-17。明治大学が接戦を制し、見事な勝利を収めました。

◆立教大戦を振り返って

立教戦にて、幹部を中心とした選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。

◆インタビュー　#21　高橋周平（RB）

■立教大学と対戦した印象。
DFのシステムが複雑で毎試合アジャスト能力が高く求められる試合展開になります。若い選手が多くエネルギッシュで波に乗らせてはいけないチームという印象です。

■立教線の反省
offenseでは取り切れないシーンが多かったり、defenseでは一発でやられたりと難しい試合にさせてしまいました。チームとして余裕を持って勝てた試合にしなければならず、練習からさらに一個一個のこだわりややり切りを意識していかなければならないと反省しました。

■6月1日法政戦への意気込み。
　特に法政だからということは考えていませんが、春の1試合の試合結果は直接秋にも影響していきます。常に勝ちにこだわりチーム内での競争意識を高く持って法政を圧倒します。

◆インタビュー　#6　舘虎之介（LB）

■立教大学と対戦した印象。
チームとして笛が鳴るまでプレーをし続けることを徹底している印象でした。

■立教線の反省
ディフェンスとしてはPRでタッチダウンを取れて、普段の練習のブロックの意識が試合でも出せたのでその点は良かったです。しかし、17点も取られ、取られ方も2本とも1発で取られてるのでそこは改善していきます。

■6月1日法政戦への意気込み。
次戦は去年準優勝の法政大学との試合なので、そういうチームに対して自分たちがどのような戦い方ができるか準備を徹底して、勝利できるようやっていきます。

◆インタビュー　#19　副将　五十嵐

■立教大学と対戦した印象。
接戦が多く、勝負所で決めてくるという印象があります。

■6月1日法政戦への意気込み。
フェンスとして満足いくような結果が出せず、ディフェンス・キッキングに頼った試合になってしまったので次戦はオフェンスでチームを助けられるような試合をして勝利に貢献したいと思います。

明治大学アメリカンフットボール GRIFFINS

■次戦

2025年6月1日(日)13：30　法政大学川崎総合グラウンドで法政大学との対戦です。
昨年は春シーズンで法政大学に勝利しているGRIFFINS。
　今回の立教戦の勝利から波に乗り春シーズンを終えたい。
昨年準優勝である法政大学に対し、どこまで良いパフォーマンスができるかが見所になっております。
試合観戦は無料ですので、法政戦への勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！　GRIFFINSを皆様の熱い応援でサポートしましょう！

Go！ GRIFFINS.